様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３４３１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｋ０４１１７

研究課題名（和文）黎明期広告業界誌『プレスアルト』広告現物全調査に基づく関西の広告史研究

研究課題名（英文）A Study of the History of Advertising in Kansai Based on a Survey of All Actual Advertisements in the Early Advertising Industry Magazine "PRESARTO"

研究代表者
竹内　幸絵（Takeuchi, Yukie）

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：４０５８６３８５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、これまで幻の存在だった広告資料収集事業『プレスアルト』の全容を調査し、完結した。同事業は1937年から戦時期数年を除く1970年代後半までの約40年間、毎月２０余点の広告現物を約200名の会員に頒布した事業である。調査では約6200余点の広告作品と、発刊された「プレスアルト」誌312点の全ページをデータベース化した。この広告資料群は賞を受賞した著名な広告作品群ではなく、そうした著名作よりも後世に残り難い日本の広告の実情の記録である。
また本研究は多数の一般市民に来場頂いた展覧会の開催、成果に基づく書籍の出版と学会発表、学術雑誌での論考発表等、多くの層に届く方法で成果を公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
発行部数が極めて少なく、幻の存在だったプレスアルトを調査し、学際的な広告史探究に資するデータベースとして構築した。これまで社会学・メディア史・写真史・デザイン史・印刷史等の分野が取り組んできた広告研究の研究対象は、広告賞受賞作などの一部の著名作に偏っていた。本研究が調査した約6200余点の広告作品群は、この偏りを是正する意義を持つ。
また日本の広告の実情のデータベース化は、知られざる無名の広告物の発掘という意味にとどまるものではない。学際的な本研究の成果（竹内幸絵編著、創元社、2020年）で示した通り、当時の思想や思考をデザイン資源を通して探求することの意義を示す意味をも持つものである。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the entire history of PRESARTO. That PRESARTO collected advertising materials and published magazines is known, but most of its activities are a mystery. PRESARTO published a monthly magazine critiquing advertisements, most of which were not famous, and collected and distributed general ads, over 6,200 ads in all. Their activities came out monthly from 1937 until the late ’70s, with the exclusion of the war years. This study compiled two databases: one of more than 6,200 advertising works collected by PRESARTO, and the other of 312 issues of the magazine. This study aimed to correct the bias of previous research that focused only on famous works in the history of advertising.
The results of this study were made public in a number of ways, including an exhibition that was attended by many members of the public, a publication of a book based on the results, a presentation at an academic conference, and a publication of an essay in an academic journal.

研究分野：広告史、デザイン史、歴史社会学

キーワード：広告史　歴史社会学　戦後文化　デザイン史　印刷技術

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

昭和 12 年に広告現物の頒布を目的に開始された「プレスアルト研究会」の事業と、並行して発刊した解説冊子『プレスアルト』は、発行数が極めて少なく長らく幻の存在だった。同会が頒布した広告のほぼ全てとみられる物量の資料群が発行人遺族宅にて発見され、これを継承した大阪新美術館準備室（現：大阪中之島美術館）の全面的な協力を得、同時期の広告現物資料としては比肩する類例がないこれらを調査しデータベース化する計画を立てた。

「プレスアルト研究会」が行った事業は、会員数に足りる部数の広告現物の寄付を受け、これを帳合し、毎月 20～30 点を解説冊子とともに会員に頒布するというものである。活動は創刊から戦時 5 年の停止期をはさみ戦後も継続した（終刊年度は本研究の開始当初あいまいだった）。小資本であるがゆえに採られた現物を配布するという手作りで特異な手法は、発達途上だった黎明期の広告業界に影響力を持った。やがて東京の広告界をも巻き込みながら昭和初期の広告近代化に貢献するとともに、類例のない長期の発刊継続は、戦前・戦時期・戦後の日本の広告・宣伝の展開を後世に示す貴重な資料群となった。しかしこうした性質上もともと極めて数が少なく、大阪新美術館建設準備室が所有する現物は現存する唯一のものと考えられる。科研応募にあたり行った事前調査ではおよそ 300 冊の解説冊子と、同時に頒布された広告現物の存在が確認できていた。

２．研究の目的

当研究の目的の第一は、広告現物とこれを概説する冊子体という極めて特異な形式を持つ「プレスアルト研究会」が行った事業を調査・整理すること、これをもとにして、社会学・メディア史・写真史・デザイン史・といった多方向から、一般的な広告を原資料とした広告史探究を推進することである。使用後廃棄される広告は後世に残ることが稀であり、これまでの広告史研究はもっぱら著名作（何らかの広告賞受賞作や話題になった広告など）を対象として行われてきた。ごく一般的な広告資料の集成である「プレスアルト研究会」が行った事業はこの偏りを是正する役割を持つと考える。

また解説冊子とともに存在するという同事業の特異性により、この広告現物群は、正確な制作年、印刷様式、デザイナー、印刷業者といった詳細の確定が可能である。冊子に記載の制作経緯等とあわせ、データベース化・一覧化することで、制作年が確認できないその他の広告作品に対しても、判断軸を提供することが可能となると考えた。

加えて冊子に記載の広告制作者の制作意図、その広告の反響までも具体的に研究対象と出来ることから、これまでとは異なる広告史へのアプローチ、すなわち広告表現を時代意識の有力な証言者と位置付けた、学際的な広告史探究に資することができると考えた。

第二に、関西を足場とした広告史探求の必要性に対しての貢献も当研究の目的であった。これまでの日本の広告史は、東京発の広告が日本全体に広がるという見方を前提として記述されてきた。大勢としてその流れは否定できない。しかし東京偏重の社会に生きる私達は忘れかけているが、広告黎明期である戦前モダニズム期、広告を含むメディアは関東よりもむしろ関西が活発

に活動していた。広告を発信する社会装置であった百貨店や、薬・化粧品・酒といった広告に積極的な会社の規模は東西拮抗していたのみならず、関西の百貨店は東京に先んじて近代的な広告制作手法を取り入れていた。これらを考慮すると同時期の関西に焦点をあてた広告史研究は日本の広告史研究全体にとって重要に思われるが、従来そうした観点は注目されてこなかった。関西を拠点に活動した『プレスアルト』は、この東京偏重の広告史研究を是正する役割をも担うと考えた。

３．研究の方法

以下の４つの過程を経た。詳細は、４．研究成果に記載。

(1)「プレスアルト」広告現物群の調査・アーカイブスの構築

(2) 広告現物付帯情報の調査・目録化し(1)と紐づけたデータベースを作成

(3)「『プレスアルト』と関西広告史の実証的研究」研究会の開催

(4) 研究成果の公表　展覧会、シンポジウムの開催と報告書の出版

４．研究成果

(1)「プレスアルト」広告現物群の調査・アーカイブスの構築

研究協力者を雇用し、段ボール箱20数箱に収納されていた解説冊子と広告群を順に開梱し、何号が存在しているか、またそこに付帯すべき現物が何点揃って残っているかなどの詳細を確認した。初年度の調査で現存するものが278冊（号）であることが確認でき、頒布された広告現物はおよそ5560種類であることが判明した。初年度の調査手順は所在を確認し目録化するとともにスナップ写真で現物の状態を記録する方法をとった。目録との対照が容易となるようスナップ写真には作品番号を映しこんだ。

(2) 広告現物付帯情報の調査・目録化し(1)と紐づけたデータベースを作成

解説冊子内の一覧と、現物に添付されていたラベルから各広告の情報を投入した目録を作成。この目録データを、データベースアプリケーションを使用したフォーマットに投入。各レコードに(1)で撮影したスナップ写真を紐づけていき「プレスアルト広告データベース」を構築。

これとは別に解説冊子の全頁をスキャニングしデジタルデータ化したものを一覧化し「プレスアルト解説書データベース」を構築した。解説冊子内の論考を目次化し、著者名、目次名で掲載冊子を検索できる機能を付与した。

この二つのデータベースの恒久的な保存と、将来的なオープンアクセスを目し、手元パソコンでのデータベースアプリケーションによる管理から、専用サーバーでの管理へと移行した。移行先は立命館大学アートリサーチセンターが管理運用する専用サーバーである。このサーバー上で、二つのデータベースを関連付けて検索できる機能を付与した。下記５，主な発表論文等〔その他〕参照

(3)「『プレスアルト』と関西広告史の実証的研究」研究会の開催

(1)(2)の構築と並行して、(1)(2)を基礎資料とした学際的な研究会を開催した。参加者は、デザイン史、美術史、写真史、社会学、音楽史、印刷技術の専門家、計10名。ここでの検討をふまえて(4)に記載の通り、多くの層に届く複数の方法で成果を公開した。

(4)　研究成果の公表　展覧会、シンポジウムの開催、報告書の出版、学会発表と学術論文投稿

①：成果の周知を目的に展覧会「プレスアルト誌と戦後関西の広告」を開催。

場所：大阪市江之子島文化芸術創造センター　期間：2018年10月2日～10月13日。

（大阪新美術館と共催）

展示は「プレスアルト」広告現物およそ60点、冊子と帳合されている状況と中身が見えるよう工夫したガラスケース、プレスアルトの表紙を見せる形での30冊の連続展示、および参考資を加えて構成。展覧会の様子は新聞メディア等にも複数掲載された。

②：シンポジウム「関西広告を開梱（アンパック）する ― 『プレスアルト』誌というアド・アーカイブ ―」の開催。（民族藝術学会と共催）

開催日：2018年 10月6日。登壇者は研究代表者と研究分担者、研究会のメンバーである以下。

松實輝彦（名古屋芸術大学）、輪島裕介（大阪大学）、植木啓子（大阪新美術館建設準備室）

熊倉一紗（京都造形芸術大学）、佐藤守弘（京都精華大学）

③：報告書作成

竹内幸絵編著『開封・戦後日本の印刷広告『プレスアルト』同梱広告傑作選＜1949-1977＞』創元社、2020 年 3 月、全 238 頁。　下記５，主な発表論文等〔図書〕参照

④：学会発表、論文投稿

下記５，主な発表論文等〔雑誌論文〕〔学会発表〕参照

研究成果：まとめ

当研究は、一般市民の来場を得る展覧会の開催、報告書書籍の出版と学会発表・学術雑誌での論考発表等、多くの層に届く方法での成果公開を実現した。その基となった最大の成果は、発行部数が極めて少なく幻の存在だった「プレスアルト研究会」の事業を、社会学・メディア史・写真史・デザイン史・印刷史といった学際的な広告史探究に資するデータベースとして構築出来たことである。今回の調査対象である大阪新美術館所有の「プレスアルト研究会」広告資料群と解説冊子に加え、当研究を延長した 5 年目には他の資料館等が所蔵している冊子も調査し、データベースの拡充を図った。その結果最終的なデータ件数は「プレスアルト解説書データベース」掲載冊子数：350 冊　「プレスアルト広告データベース」掲載広告数：6131 件　となった。特別号ではあるが確認できた最終号は 1986 年であった。

今回データベース化した広告群は、広告賞受賞作品といった偏りを持たない日本の広告の実情の記録である。制作年が正確にわかる一般的な広告群のデータベース化は、これまでに実例のない成果と言える。このような性格がゆえに、今回の成果は、知られざる広告デザインの発掘という意味にとどまらず、デザイン資源を通した探求の可能性、制作当時の社会背景、市井の人々の思想や思考をデザイン資源から解き明かす研究の可能性を示す意味を持ったと考える。また本研究の成果により、研究の途についたばかりである戦後日本の広告に関する研究、そのデザインの実際や当時の思想や思考の一端を明らかにすることも出来た。今後の課題としては、構築したデータベースのさらなる充実がある。研究者のみならず一般市民にも公開できる形式への整備が必要である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 竹内幸絵	４．巻 第46号
２．論文標題 プレスアルト研究会の事業―広告現物を頒布した小規模メディアが残したもの(研究ノート)	５．発行年 2019年
３．雑誌名 『メディア史研究』メディア史研究会	６．最初と最後の頁 pp.108-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松實 輝彦	４．巻 第14巻
２．論文標題 「『プレスアルト』誌と戦後関西の広告」展	５．発行年 2019年
３．雑誌名 大正イマジュリィ	６．最初と最後の頁 pp.126-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 竹内幸絵
２．発表標題 広告研究誌『プレスアルト』の広告群からみる高度成長期
３．学会等名 基盤研究「高度経済成長と食生活の変化」第6回研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 竹内幸絵
２．発表標題 プレスアルト研究会の事業 －メディア史研究の史料・資料としての可能性を考える－
３．学会等名 メディア史研究会　第291回月例会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計1件

1．著者名 竹内 幸絵、石田 あゆう、植木 啓子、北廣 麻貴、熊倉 一紗、佐藤 守弘、寺本 美奈子、松實 輝彦、村瀬 敬子、輪島 裕介	4．発行年 2020年
2．出版社 創元社	5．総ページ数 240
3．書名 開封・戦後日本の印刷広告	

〔産業財産権〕

〔その他〕

《「プレスアルト」広告作品データベース》
http://www.dh-jac.net/db/advertisement/search_presarto.php

（資源DB）新2021年02月より
https://www.dh-jac.net/db1/resource/search_presarto.php

《「プレスアルト」解説書データベース》
http://www.dh-jac.net/db1/mbooks/search_presarto.php

展覧会「プレスアルト誌と戦後関西の広告」
場所：大阪市江之子島文化芸術創造センター　期間：2018年10月2日～10月13日

シンポジウム「関西広告を開梱（アンパック）する ― 『プレスアルト』誌というアド・アーカイブ ―」の開催。開催日：2018年10月6日

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	佐藤　守弘 (SATO MORIHIRO) (10388176)	京都精華大学・デザイン学部・教授 (34317)	
研究分担者	熊倉　一紗 (KUMAKURA KAZUSA) (40645678)	京都造形芸術大学・芸術学部・非常勤講師 (34319)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関